



常務取締役 柿本 遼平さん

海外のお客様は、私たち以上に日本の伝統や文化に関心を持っている方が多いです。例えば、「手漉きの和紙をつなぎ合せて、カーテンとして使えないか」と尋ねられて、思わずはっとさせられたこともあります。私たちの役割は単に伝統的な紙を提供することだけでなく、**その商品の向こう側にある思いを伝えること**。お客様と一緒に折り紙を折ったり、紙風船を膨らませたりすることもあります。今後は、ショールーム内で手漉き職人の実演やラッピングのレクチャーなども開催していきたいですね。江戸時代から続く我が社の伝統を受け継ぐとともに、**一人ひとりのお客様の声に耳を傾けながら、質の高い商品やサービスを提供していくこと**。それが「ほんまもん」を求めるお客様へのおもてなしにつながっていくと思います。



和紙の温もり
に
言の葉を託して

こころを込めて 我が社のおもてなし

柿本商事株式会社

代表者／柿本 新也
住 所／京都市中京区寺町通二条上ル常盤木町54
TEL / 075-211-3481
URL / <http://www.kyoto-kakimoto.jp>

黒谷和紙や越前和紙、色紙、朱印帖、インテリア雑貨……。紙の魅力は、色や質感などその豊かな表情にあります。海外のお客様も多く、英語が話せるスタッフがマンツーマンで対応しているほか、今年度から免税販売（Tax-free）を始めるなど、きめ細やかなおもてなしで日本文化の発信に取り組んでいます。

自分の気持ちを手紙に託して届ける。メールやSNSなどが普及し、いつでもどこでも情報発信できる時代だからこそ、「言葉と向き合ってほしい」と柿本さん。手漉きの和紙に愛らしい草花の絵を手染めした一筆箋など、手紙を書く人も送られる人も心温まるようなオリジナル商品を提供しています。

2010年には、「恋文大賞（現、言の葉大賞）」の募集を始めました。口に出しては言えないけれど、どうしても伝えずにはられないメッセージ。東日本大震災で亡くなられたご主人へ宛てた奥様の手紙には、伝えられなかった感謝と帰りを待つ想いが綴られていました。その人の思いに触れることで、勇気づけられたり、ほんのちよびり優しくなれたり、言葉の力に気づかされることも少なくありません。

真つ白な紙から始まるおもてなし。自分だけのお気に入りの一枚に心を添えれば、大切な人へきつと気持ちは届くはず。